

平安時代から江戸時代

ふるさと福智の歴史をたどる

江戸時代

1603

安土桃山時代 1573

室町時代

1336

鎌倉

1185

平安時代



▲白糸の滝から上野焼を訪ねて一句「投入れて滝見顔なり折躰」

▶上野焼開窯当初から稼働し41mに及ぶ連房式登り窯を誇った「釜ノ口窯」。その後上野焼は「皿山本窯」へと拠点を移します。

▼1605年(慶長10)当代随一の教養人で忠興の父・細川幽斉が興国寺に來訪し「墨染桜」を觀賞。

▼1719年(享保4)小倉小笠原藩2代藩主・小笠原忠雄が上野に來訪し「上野八景」を創作。

▼1719年(享保4)「興国寺仏殿」が造られる【**県指定文化財**】

▼1728年(享保13)芭蕉十哲の俳人・志太野坡が上野を清遊。



▼足利尊氏・直義からの寄進状を興国寺が受け、以降「興国寺文書」が綴られる。【**県指定文化財**】

▼1587年(天正15)香春岳城の戦いで小原信利が戦死。

▼1602年(慶長7)豊前小倉藩主・細川忠興が李朝陶工・尊楷を招いて福智山麓に「上野焼」を開窯。【**国指定伝統的工芸品**】



▲弁天城の城跡付近には、今も弁財天の祠がまつられています。

▼平安時代後期に「東光寺経筒」が埋納される。【**県指定文化財**】

▼1335年(建武2)「梵字曼荼羅」が刻まれる。【**県指定文化財**】

▼南北朝時代に「無隠元庵坐像」が彫られる。【**県指定文化財**】

▶1601年(慶長6)、筑前に入国した黒田長政が六段城の一つに定めた鷹取城。その城主で「黒田節」のモデルの母里太兵衛は「富士山より福智山の方がすばらしい」と生涯譲らなかつた逸話が残っています。



▼古くからこの地は豊前と筑前の境界で、勢力争いの場でした。1046年(永承元)、鷹取城が長谷川吉武によって鷹取山頂に築城され、豊前国の城としては500年以上の歴史を重ねました。

町指定文化財 虎尾桜 エドヒガン (上野)

県内で最大最古かつ希少種の桜

虎 尾桜は希少種エドヒガンの桜で、推定樹齢は600年以上、樹高約23m、幹周り約4mで、県内最大、最古といわれています。福智山麓には同種のエドヒガンが分布していますが、虎尾桜はそれらの母樹的存在となっています。



▶濃いピンクの花と虎の尾のような枝先が特徴

県指定文化財 定禪寺の藤 (弁城)

香りと鮮やかさで魅了する町花

定 禅寺の境内にある樹齢500年以上の「迎接の藤」。幹周囲約4mの1本の樹が庭園を覆うように広がっています。毎年大型連休のころに満開になり、県内外から甘い香りに包まれる紫の藤棚を愛でる花見客でにぎわいます。



▶町花としても親しまれている鮮やかな藤の花

県指定文化財

町指定文化財

町に宿る文化財

気になる**至宝**をピックアップ!

県指定文化財 方城岩屋唐崖梵字曼荼羅 (弁城)

福智修験が岩肌に刻んだ曼荼羅

岩 屋権現境内の岩壁に刻まれた梵字曼荼羅。神仏が梵字と呼ばれる古代インドの文字で表されています。1335年(建武2)に良蜜という僧侶が願主となって完成したとする説が有力で、記年銘のある梵字曼荼羅としては最古となる貴重な史跡です。



県指定文化財 東光寺経筒 (市場)

緻密な経典と筒

東 光寺の境内から出土したと伝えられる銅製経筒です。中に収められた経典はとても保存状態がよく、判読することができます。平安時代後期から末法思想(仏教の教え)の広がりとともに、経典を地中に埋納することが盛んに行われました。



県指定文化財 興国寺仏殿 (上野)

別 名「観音堂」と呼ばれる興国寺仏殿は、足利尊氏ゆかりの千手観音が安置される歴史ある建造物。反った屋根や裳階、堂内壁ぎわにある禅牀など、仏殿と座禅堂の機能を兼ね備えています。



興国寺仏殿(観音堂)を特徴づける反った屋根の裳階

県指定文化財 当座権現の大杉 (弁城)

九 州本島での天然分布がほとんどない杉。その中で岩屋権現の大杉は、在来品種とは形態が異なり、実生によってこの地に繁殖したものと考えられています。今なお成長を続けている大杉です。



樹高は約37m、推定樹齢は4百年といわれている大杉

町指定文化財 小原信利公墓碑・常立寺旧本堂棟札 (神崎)

宮 本武蔵の養子・伊織の祖父にあたる小原信利の墓碑と宮本家とのゆかりを示す棟札がある常立寺。伊織らにより創建された常立寺には、かつて武蔵が訪れた伝説が伝えられています。



▲小原信利公の墓碑と ▶常立寺旧本堂の棟札

県指定文化財 紙本墨書興国寺文書 (上野)

興 国寺の南北朝時代から近世にわたる古文書を2巻にまとめたもの。足利尊氏や弟・直義の寄進状など、室町時代に全国66か国に作られた安国寺に関する最古の文書が収められ、大内氏、細川氏、小笠原氏など、有力者や歴代藩主が興国寺を庇護した様子も知ることができます。



▲足利尊氏が戦運を占った「墨染桜」の詠歌も収納

細川幽斉(左)と小倉小笠原藩の初代藩主・小笠原忠真(右) ↑

県指定文化財 末造元庵禪師坐像 (上野)

元 の国に渡って名を馳せ、帰国後、官寺最高位の南禅寺(京都)住職などを歴任した興国寺開山・無隠元庵の像です。南北朝時代の檜の寄木作で左右の骨格や肉付が細部まで表現され、生前に彫られた可能性もあり、眼は玉眼、彩色が施されています。作者は不明ですが秀逸な頂相彫刻で、今にも動き出しそうな迫力があります。なお、元の国で無隠元庵を讃えて贈られた馮子振の書は、国宝に指定さ

▶高僧の無隠元庵禪師の坐像

